

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立四条中学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	1年 3クラス 117名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (人権学習) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	① 異なる立場で生きる方々（盲人）と交流を通し、自分自身の理解を含め、他者との関係を理解し、社会の中に存在する課題を解決する力の育成をはかる。 ② ①より、すべての人における「共生・協働の社会づくり」を目指した社会づくりに必要なことが何であるかを考え、具体的に行動に移せるようにする。 ③ 講演・ゴールボール選手の実技や生徒自身の競技体験を通じて、障害者支援、パラリンピック競技への理解を深めさせる。
5 取組内容	1) 指導日時および場所 ① 12月 4日（水）5限・6限（13:15～15:05） 1年各教室と1年のフロア及び階段等 ② 12月 6日（金）5限・6限（13:15～15:05） 体育館と1年各教室 ③ 12月11日（水）6限（14:15～15:05） 2) 指導内容 ① 12月4日（水）5限 1年各教室 (導入) 1年生の人権学習のテーマについて健常者と障害のある人たちの違いを理解し支援の在り方や障害がある人たちや私たちがともに共生できる社会作りを考える。

【 パワーポイントの資料の一部 】

(発展)

2020年に開催されるパラリンピックを学習し、パラリンピックの意義を確認し共生できる社会作りを考える。

【 パワーポイントの資料の一部 】

② 12月4日(水) 6限 各階のフロア及び西階段等

(発展【演習】)

- ・視覚障害について体験学習

校内でのアイマスク体験を通し、視覚障害者への支援の在り方を学習する。

【 活動のようす 】



- ゴールボールのルールの説明と12月6日（金）の事前学習
ゴールボールに対しての質問をとるとともにゴールボールへの関心を高める。

【 パワーポイントの資料の一部 】



- ③ 12月6日（金）5限・6限 本校体育館
講演とゴールボールの実演と体験学習（発展【演習】）〔90分〕
i) 20分 講師による視覚障害・ゴールボールについて講演
内容：京都ライトハウスより講師来校。ライトハウスの紹介・
視覚障害支援の講演とゴールボールのDVDの上映（導入）

【 活動のようす 】



ii) 60分 ゴールボール 体験

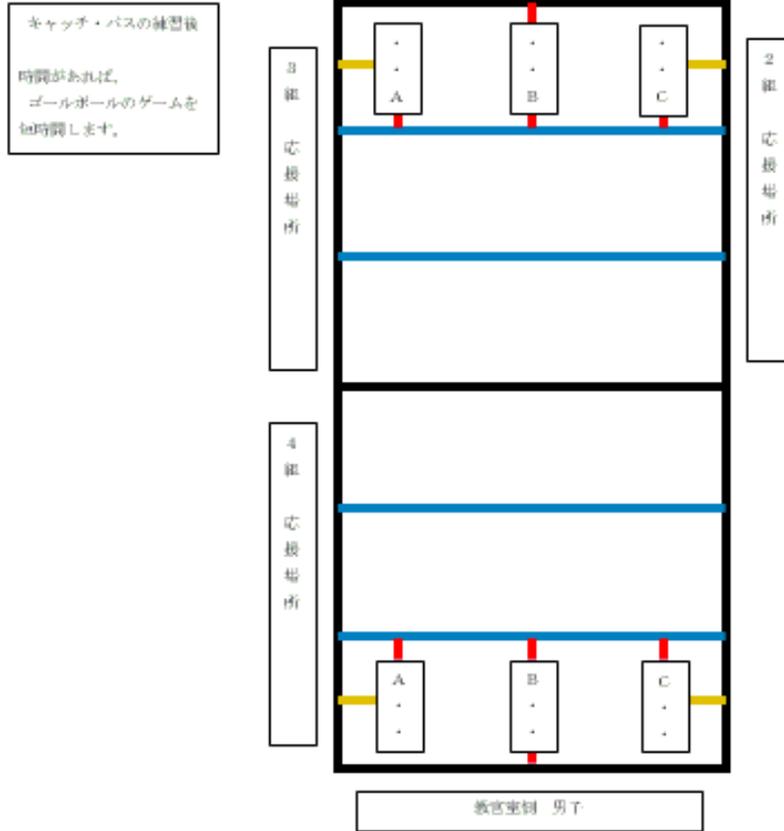
内容：ゴールボールの競技者来校。ゴールボールの実演

ゴールボールの体験

◇ 各クラスのならびかた

- ① A～C のポイントで、女子は西側（ステージ側）、男子は東側（教習室側）に1列で並ぶ。
- ② クラスごとに、アイマスクを装着して、クラス男女間で、パス・キャッチの練習を行う。
- ③ 2往復したら、交代をしていく。

<ゴールボールのコート図>



【 活動のようす 】

①パス練習



②ゲーム



iii) 10分 各教室

内容：本時のふりかえり

④ 12月11日(水) 6限 1年各教室

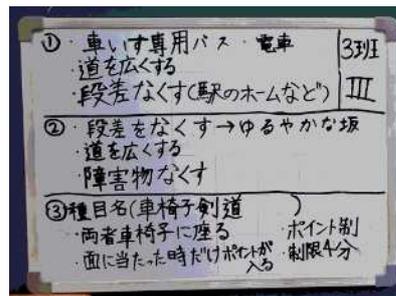
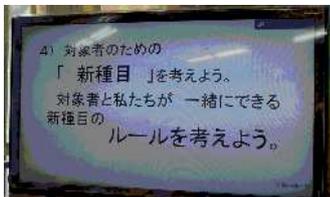
内容：障害がある人たちや私たちがともに参加して取り組めるスポーツ作り。パラリンピックの種目でないスポーツのルール作りを行う。

<備考>

1クラス各班で i) ~ iii) の人を対象としたスポーツのルールを考える。

- i) 視覚に障害がある人
- ii) 聴覚に障害がある人
- iii) 車いすでの生活をする人

【 活動のようす 】



<p>6 主な成果</p>	<p><目標></p> <p>下記のⅠ，Ⅲ，Ⅴ の 実践テーマに沿って取り組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> Ⅰ スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び Ⅲ スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 Ⅴ スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 <p><結果> アンケートより</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 視覚障害者の生活を知り、どのように接していかなくてはいけないのか、体験の中で習得できたと考えます。 ② ゴールボールを通して、パラリンピックの意義、歴史を学習することができたと考えます。 ③ 「新しいパラリンピック種目を考える」取組では、障害の課題を支える方法を考え、種目作りにはしっかりと取り組むことができたと思います。 <p>健常者としての生活では見えてこない内容、知り得ないことを体験から多くのことを得たと考えます。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>特記事項はありません</p>

8 主な課題等	<p>ゴールボールを実際に活動に取り入れる場合、ライトハウスの担当者との十分な打合せをしていただきたいと思います。</p> <p>また、活動の際に選手の方々の実演等を考えるのであれば、選手の方々全員仕事をされている都合で、平日に来ていただくことが困難になります。</p> <p>そして、ゴールボールについての認知が自分に不足していたこともあるのですが、選手の方々も広報活動が大変であると考えられ、対外的な活動を積極的に考えられているのですが、先に上げた通り、ほとんどの方が仕事をされているので、こちらが、選手の方々との交流を第一に考え、私たちのほうからチームの練習に参加していただくことで選手の方々の思いを知り、それをつなぐ役割をになう思いをもって運営を進める必要が有ると思います。</p> <p>この取り組みは、人と人でつなぎ作るものなので、こちらから、選手の方々との距離をしっかりと近くしていただきたいと思います。</p> <p>選手の方々の活動を理解し、応援する取り組みも、取り入れていくことも大切な事であると。伝えていくべきだと考えます。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今年度は、これまで例年取り組んできた車椅子バスケットボールからゴールボールに変更したことで、まったく資料がない中での始まりでした。</p> <p>準備の段階でこの種目の意義を私たち教員が学ぶ中で、人権学習として取り組みに入れる教材として、多くの視点を持つことができる種目であることを知ることができました。</p> <p>今年度、触れることができなかったこと、また、その発展として生徒で考えた種目の実演等の生徒による運営と実施を行わせていきたいと考えます。</p>